



May 2017

難民キャンプ改善に向け、キャンプ住民のフォーラムを設立

難民キャンプ改善プロジェクト(PALCIP)の始動

パレスチナ自治区のヨルダン川西岸地区では、22万人以上の難民が、19カ所*の難民キャンプで生活しています。多くの難民キャンプは60年以上前から作られてきたもので、施設やインフラの老朽化に伴い、生活環境の悪化が見られます。

JICAは、現地での活動を2017年1月より、パレスチナ解放機構(PLO)難民局(DoRA)を開発パートナーに、難民キャンプ改善プロジェクト(PALCIP)を開始しました。今後3年間をかけて、DoRAの能力向上、制度改革を行いながら、各キャンプにおける「キャンプ改善計画」(CIP)策定と実施の支援を行っていきます。

活動キャンプの選定

PALCIPでは、キャンプ改善計画策定支援を行う最初の活動地として、アクバットジャバル(Aqbat Jabr)キャンプが選定されました。同キャンプは、ジェリコ地域に位置し、8,500人ほどのパレスチナ難民が生活しています。

アクバットジャバルキャンプでの活動開始

2017年3月、アクバットジャバル・キャンプでは、生活環境などに関する基礎調査を行った後、今後のキャンプ改善に関して説明会を行い、キャンプの住民と意見交換を行いました。また、DoRA職員への研修の一環として、PRA(参加型農村調査手法)を用いて、キャンプでの情報収集を行いました。*国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)公認キャンプに限る

キャンプ改善フォーラム(CIF)の設立

2017年5月には、キャンプ改善計画策定の担い手として、キャンプ改善フォーラム(CIF)が形成されました。フォーラムは、難民局下部組織の住民委員会の代表や、キャンプ内で活動する市民団体の代表で構成される委員会、女性、障害者、高齢者、若者など、立場の異なる人々を代表し、キャンプに生活する人々の声に広く耳を傾けながら、キャンプ改善計画策定のための議論を行っていきます。

フォーラムは、活動の透明性を重視するため、すべての議論の経過や結果は随時、SNSや掲示板、新聞広告などを通して公開し、キャンプ内の人々からフィードバックを受けながら、進めていきます。

キャンプ改善計画(CIP)策定の進捗と今後

現在、キャンプ改善フォーラムでは、キャンプで生活する異なるグループの人々を対象に、生活改善のためのニーズを聞き取るフォーカスグループ・ディスカッションを実施しています。各ディスカッションの結果は、キャンプの人々のニーズのリストとして、整理される予定です。

このリストをもとに、フォーラムではキャンプ改善のための必要な活動を特定し、キャンプ改善計画として纏めていきます。キャンプ改善計画で特定された活動のうちいくつかは、PALCIPの活動の中で予算をつけ、実現していく予定です。